

4K チャンネル・ストリップ

ラージフォーマット・ミックスモジュール

SSL 4000は他社のいかなるコンソールよりもプラチナ・レコードの影に存在していることで有名です。押し強いコンプレッション・キャラクターとバンド間を相互補間するカラフルなEQは広範囲に渡り直感的で豊かなサウンドを提供します。UAD 4Kチャンネル・ストリップは多くの栄光やヒットを得ている4000シリーズのコンソール・チャンネルをエミュレートしています。

UAD 4Kチャンネル・ストリップは、広く知られているSSL血統のシグナル・プロセッシングを行い、Type Eの「ブラック・ノブ」4バンド・イコライザーと共に4000G+のサーキットを完璧にエミュレーションしています。

賞賛すべき幅広い特徴がUAD 4Kチャンネル・ストリップにあります。:18/dBハイ、12dB/ロー・カットフィルター、独立したエクスパンダー/ゲートとコンプレッサー/リミッター、加えて有名なタイプEの4バンド・イコライザー。ミッド・バンドEQはフル・パラメトリック、ハイ/ロー・バンドはスイッチによりベル、またはシェルビング・タイプへの切り替えが可能です。リミット/コンプはスレッシュホールド、固定されたファーストまたはスローアタックタイム、100msから4secまでのリリースと連続的に可変可能なレシオ・コントロール、ゲート/Expはスレッシュホールド、固定されたファーストまたはスローアタックタイム、100msから4secまでのリリースとゲート/エクスパンション・エフェクトのテイル・レンジ。それに加え、UAD 4Kチャンネル・ストリップはSSLデザインのゲート・サーキットから移植したセカンド・ゲート・セッティング「No Chat」を取り入れました。

「PRE-DYN」ボタンを押すことによってユーザーはシグナルチェーンを整理し直し、EQをダイナミクス・セクションの前に配置します。「DYN-SC」ボタンはサイドチェーンを使用し、カット・フィルターかEQ、また両方を使用して周波数に依存するコンプレッションを可能とします。最後にプラグインのステレオ・バージョンを使用するとき、Linkボタンにより、サイドチェーンにリンクするか、しないかを決定することができます。

4K チャンネルストリップ・スクリーンショット

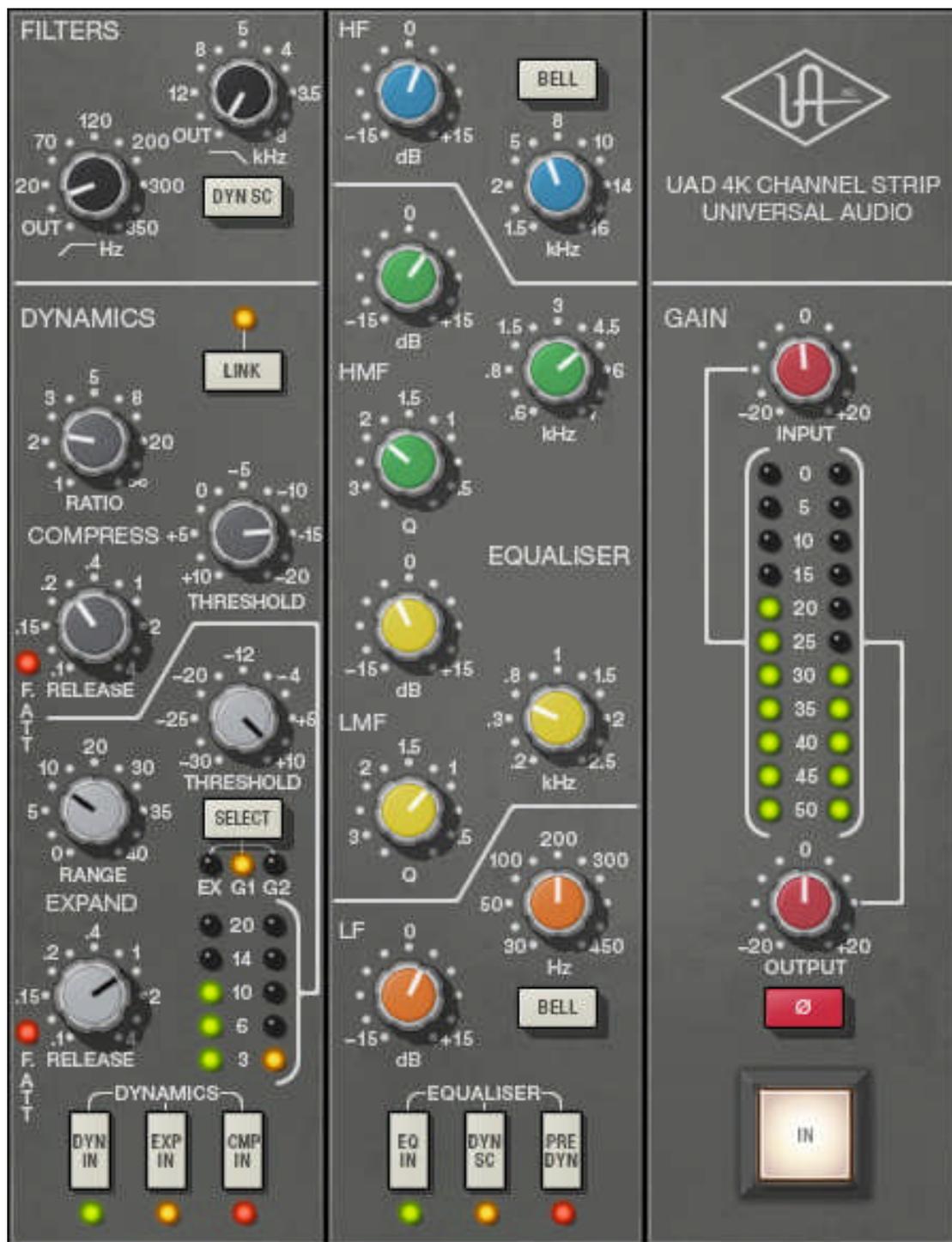


Figure 51. The UAD 4K チャンネル・ストリップ プラグイン・ウィンドウ

4K チャンネル・ストリップ・コントロール

The 4K チャンネル・ストリップ・コントロールは4つのメイン・セクションに分けられます。

フィルター、ダイナミクス、EQ、グローバル



フィルター

4バンド・イコライザーに加えて、UAD 4Kチャンネル・ストリップはそれぞれが独立したハイ/ローパス・フィルターを通過します。フィルター・コントロールが完全にミニマムを差す時(反時計回り)、フィルターはオフになります。

ハイパス 左側のノブは、ハイパス・フィルターのカットオフ・フリークエンシーを設定します。低い周波数をカットするには時計回りに回転させて下さい。ハイパス・フィルターのスロープは1オクターブにつき18dBです。コントロール可能な範囲は16Hz～350Hzです。

ローパス 右側のノブは、ローパス・フィルターのカットオフ・フリークエンシーを設定します。高い周波数をカットするには時計回りに回転させて下さい。ローパス・フィルターのスロープは1オクターブにつき12dBです。コントロール可能な範囲は22kHz～3kHzです。

サイドチェインへのフィルター(DYN SC)

このボタンはフィルター・サイドチェイン機能を使用可能にします。フィルター・サイドチェインがオンになっているとき、フィルター・モジュールから出力されたシグナルは音声経路(シグナル・パス)から取り除かれ、その代わりにダイナミクス・モジュールをコントロールするために(キーとして)送られます。

サイドチェインは典型的なディエッサーと周波数を意識したテクニックのために使用されます。サイドチェイン・キーを聞くには単純にDYN SCを外して、フィルターを通ったシグナルを聴いて下さい。ステレオイン/ステレオアウト(SISO)で使用する場合、サイドチェイン・ダイナミクス/EQはステレオで動作します。

注:フィルター・サイドチェインのためにフィルター・モジュールを機能させるには、フィルターDYN SCボタンがアクティブであり、設定値がミニマムではないことが必要です。ダイナミクス・サイドチェインの追加情報については196ページの「EQ to Sidechain (DYN SC)」を参照してください。

ダイナミクス

別々の「ソフト・ニー」コンプレッサー/リミッターとエクスパンション/ゲート・モジュールはダイナミクス・セクションで使用可能です。それぞれのモジュールごとにコントロールを備えています。

重要:ダイナミクスはダイナミクス・セクターボタンが有効にならない限りオンになりません。(193ページの“Dynamics In (DYN IN)” on page 193を参照してください。)

コンプレッサー/リミッター



リンク

UAD 4Kチャンネル・ストリップがステレオイン/ステレオアウトの設定で使用されているとき、別々の2台のダイナミクス・プロセッサがステレオチャンネルとして動作しています。

リンクボタンが有効になっているとき、2つのコンプレッサーは同じように動作します。

これはステレオのイメージで出力するために片方のチャンネルだけにエフェクト効果が片寄ることを防ぎます。どちらのチャンネルにも大きな入力があっても両方のチャンネルに同じようにエフェクトをかけます。

オレンジのLEDが点灯している場合にはリンクは動作中です。プラグインがモノ入力で使用されるとき、リンクには影響がありません。



レシオ

レシオはコンプレッサーで処理するゲイン・リダクションの量を決定します。例えば、20dBで入力された信号を10dBにまで下げるにはつまみを2の位置にすると入力値は半分になります。(圧縮比率は2:1)

UAD 4Kチャンネル・ストリップ・コンプレッサーは1:1(圧縮なし)から無限:1(リミッティング)まで圧縮比を連続可変で設定可能です。

注:レシオ値によって減らされる前にインプット・シグナルがスレッシュホールド値を上回っている必要があります。



スレッシュホールド

スレッシュホールドは圧縮を始める信号レベルを設定します。ここで設定されたレベルを超える信号に対して圧縮をかけます。このレベル以下の信号はエフェクトの影響を受けません。設定可能な範囲は+10dBから20dBまでです。より多くの(小さな出力でも)圧縮を得るためにはつまみを時計回りに回して下さい。

このコンプレッサーにはオート・メイクアップ・ゲイン機能があります。スレッシュホールド値が下げられ、(ツマミを時計回りに回して)圧縮が増えた場合、モジュールからアウトプットされる音量も下がるので、自動的に補正されます。



リリース

リリースは入力された信号がスレッシュホールド・レベルを下回った場合、コンプレッション効果が終了するまでの時間の長さを設定します。長いリリースタイムを設定する場合には滑らかな効果を得られ、それは頻繁にピークを越える音源に対して効果的です。しかしリリース時間が長すぎた場合、音量の大きい部分によって起こるゲイン・リダクションがそれ以降の部分にも影響し、小さい音量のレベルをさらに下げてしまうかもしれません。

設定可能なリリースタイムは0.1秒～4秒の間で連続的に設定可能です。



アタック

アタックは入力された信号がスレッシュホールドで設定した値を超えてからコンプレッサーが効きだすまでの時間を設定します。アタックタイムは通常自動反応でプログラムに依存しています。ファーストアタックが有効になる場合、アタックタイムは1ミリ秒です。

「F.ATT」LEDが点灯している場合、ファーストアタックは有効です。ファーストアタックを有効にするにはLED、またはラベルをクリックしてください。

Gate/Expander ゲート/エキスパンダー

ゲート/エキスパンダー・モジュールはゲート、またはエキスパンダーとして動作するようにダイナミクス・セレクトボタンで設定できます。2つのアタックタイムと連続可変が可能なリリースタイムは両方のモードで使用可能です。



ダイナミクス・セレクト

セレクトボタンを押すことで、3つのモードを順番に選択することができます。ボタンのサイクルはエキスパンド、ゲート1、ゲート2の順です。

エキスパンド (EX)

エキスパンド・モードでは、モジュールは比率を1:2に固定してエフェクトを適応します。ゲイン・リダクション量はレンジ・コントロールによって測定されます。(192ページの「Expand Range」を参照してください)。

ゲート 1 (G1)

ゲート1モードでは、エキスパンド・スレッシュホールドで設定した値よりも下の信号はエキスパンド・レンジ量

によって減衰されます。ゲート1は初期のハードウェア・コンソールのゲート・モードに似ています。

ゲート 2 (G2)

ゲート2モードでは、ゲート1と同じ機能を有しますが、違う点はハードウェアの後期バージョンに由来する「ノーチャッター」レスポンス・キャラクターがあります。



スレッショルド

スレッショルドはエキスパンド、またはゲート・コントロールが起こる入力レベルを設定します。ここで設定した入力レベル以下の信号にもエフェクト効果を与えます。スレッショルドでの設定値よりも上の信号は影響を受けません。スレッショルドは-30dBから+10dBまで連続可変が可能です。

一般的な使用法はスレッショルド値をノイズが存在するレベルよりも上(雑音を通さないように)に設定し、通過させたい信号よりも下(望ましい信号が通るよう)に設定することです。



レンジ

レンジ(デプス)はゲーテッド/エキスパンド・ゲインとノン・ゲーテッド/エキスパンドとの間の信号の違いをコントロールします。高い値ではスレッショルド以下の信号の減衰を増やします。値を0に設定するとゲート、またはエキスパンドは動作しません。設定値は0dBから-40dBまで連続可変で設定可能です。



リリース

リリースは入力された信号がスレッショルド・レベルを下回った場合、ゲート/エキスパンダー効果が終了するまでの時間の長さを設定します。設定可能なリリースタイムは0.1秒~4秒の間で連続的に設定可能です。

長いリリースタイムを設定する場合には滑らかな効果を得られ、それは頻繁にピークを越える音源に対して効果的です。

注: 速いリリースタイムは、一般的にパーカッション等の特定の楽器に向けています。他の音源にも速いリリースタイムを使用すると好ましくない結果になるかもしれません。

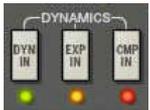


アタック

アタックは、スレッシュホールドで設定した値を超える信号が入力されたとき、ゲート/エキスパンダーが効き始めるまでの時間を設定します。アタックタイム

アタックタイムは通常自動反応でプログラムに依存しています。ファーストアタックが有効になる場合、アタックタイムは1ミリ秒です。

「F.ATT」LEDが点灯している場合、ファーストアタックは有効です。ファーストアタックを有効にするにはLED、またはラベルをクリックしてください。



ダイナミクス有効ボタン

この3つのボタンはダイナミクス・プロセッサの状態を表し、決定します。

ダイナミクス・イン(DYN IN)

「DYN IN」ボタンは「コンプレッサー/リミッター」と「エキスパンダー/ゲート」モジュールを有効にします。:

「DYN IN」が使用不能なとき、どのモジュールも機能しません。

緑色のLEDが点灯している時、ダイナミクス・モジュールは使用可能です。

重要:「DYN IN」はコンプレッサー/リミッターやエキスパンダー/ゲートのエフェクト処理を有効にします。

エキスパンダー・イン(EXP IN)

「EXP IN」ボタンはエキスパンダー/ゲート・モジュールを有効にします。オレンジのLEDが点灯しているとき、このモジュールが有効になっています。DYN INが使用不能な時、このボタンは機能しません。

コンプレッサー・イン(CMP IN)

「CMP IN」ボタンはコンプレッサー/リミッター・モジュールを有効にします。赤のLEDが点灯しているとき、このモジュールが有効になっています。DYN INが使用不能な時、このボタンは機能しません。



ダイナミクス・メーター

エキスパンション・メーターはエキスパンダー/ゲート・モジュールでエキスパンドされる量を緑色のLEDに表示します。より多くの値は多くのゲイン・リダクションが行われた事を意味します。

コンプレッション・メーターはコンプレッサー/リミッター・モジュールでゲインを減衰させた値を右側のオレンジ色のLEDに表示します。より高い値はより多くのダイナミクス・コンプレッションが行われた事を意味します。

イコライザー

UAD 4K チャンネル・ストリップ・イコライザー・モジュールは4つの周波数帯にわけることができます。: 高域(HF、青いツマミ)、中高域(HMF、緑色のツマミ)、低中域(LMF、黄色のツマミ)と低域(LF、オレンジのツマミ)。高、低域はシェルビング・モードとベル(ピーク/ディップ)の切り替えが可能です。2つの中域に関してはパラメトリック・モードのみで動作します。ダイナミクス・サイドチェインに合わせるためにEQモジュール全体を無効にするか、または送ることができます。



高域(HF)

HF ゲイン

このコントロールはこのバンドの周波数帯がどれくらい増減させられるかを設定します。設定可能な範囲は±15dBです。

*Tips:*センターにゲイン・ツマミを戻すには「0」をクリックしてください。

HF フリーケンシー

このコントロールはゲイン・セッティングによって増減される周波数帯の値を設定します。設定可能な周波数帯は1.5kHzから16kHzの間です。

HF ベル

ベル・ボタンはHF(高域)バンドのコントロールをシェルビング・モードとピーク/ディップ・モードに切り替えます。ノーマル(シェルビング)モードではフリーケンシー値を上回る周波数を増減します。ベル(ピーク/ディップ)モードではフリーケンシー値を中心に上下の周波数が増減されます。



中高域(HMF)

HMFゲイン

このコントロールはこのバンドの周波数帯がどれくらい増減させられるかを設定します。設定可能な範囲は±15dBです。

*Tips:*センターにゲイン・ツマミを戻すには「0」をクリックしてください。

HMFフリーケンシー

このコントロールはゲイン・セッティングによって増減される周波数帯の値を設定します。設定可能な周波数帯は0.6kHzから7kHzの間です。

HMF Q

Q(帯域幅)コントロールはバンド・ゲイン・コントロールで増減されるように設定された周波数帯の影響を受ける幅を設定します。コントロールが反時計回りに回転したとき、幅は狭く(急に)なります。設定可能な範囲は0.4から4の間です。



中低域(LMF)

LMFゲイン

このコントロールはこのバンドの周波数帯がどれくらい増減させられるかを設定します。設定可能な範囲は±15dBです。

*Tips:*センターにゲイン・ツマミを戻すには「0」をクリックしてください。

LMFフリークエンシー

このコントロールはゲイン・セッティングによって増減される周波数帯の値を設定します。設定可能な周波数帯は0.2kHzから2.5kHzの間です。

LMF Q

Q(帯域幅)コントロールはバンド・ゲイン・コントロールで増減されるように設定された周波数帯の影響を受ける幅を設定します。コントロールが反時計回りに回転したとき、幅は狭く(急に)なります。設定可能な範囲は0.4から4の間です。



低域(LF)

LFゲイン

このコントロールはこのバンドの周波数帯がどれくらい増減させられるかを設定します。設定可能な範囲は±15dBです。

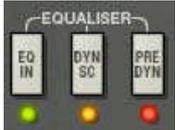
*Tips:*センターにゲイン・ツマミを戻すには「0」をクリックしてください。

LFフリーケンシー

このコントロールはゲイン・セッティングによって増減される周波数帯の値を設定します。設定可能な周波数帯は30Hzから450Hzの間です。

LFベル

ベル・ボタンはLF(低域)バンドのコントロールをシェルビング・モードとピーク/ディップ・モードに切り替えます。ノーマル(シェルビング)モードではフリーケンシー値を下回る周波数を増減します。ベル(ピーク/ディップ)モードではフリーケンシー値を中心に上下の周波数が増減されます。



イコライザー有効ボタン

この3つのボタンはイコライザー・モジュールの状態を表し、決定します。

EQイン

「EQイン」ボタンはイコライザー・モジュールを有効にします。

ボタンの下の緑色のLEDが点灯している場合、イコライザー・モジュールは使用可能です。

EQサイドチェイン(DYN SC)

このコントロールはイコライザーのサイドチェイン機能を有効にします。EQサイドチェインが作動中の時、EQモジュールから出力された信号出力はシグナルパスから取り除かれ、ダイナミクス・モジュールをコントロールするために(キーとして)送られます。ボタンの下にあるオレンジ色のLEDが点灯しているとき、EQサイドチェインは有効です。

サイドチェインは典型的なディエッサーと周波数を意識したテクニックのために使用されます。サイドチェイン・キーを聞くにはイコライジングされたサウンドを聞くためにシンプルに「DYN SC」を外して下さい。

ステレオイン/ステレオアウト(SISO)で使用する場合、サイドチェイン・ダイナミクス/EQはステレオで動作します。

注:EQモジュールはEQサイドチェインとして動作するためにEQ DYN SCボタンと共に動作中でなければなりません。ダイナミクス・サイドチェインの追加情報については189ページの「EQ to Sidechain (DYN SC)」を参照してください。

プリーダイナミクス (PRE DYN)

通常の操作(PRE DYNがオフの状態)では音声信号はダイナミクス・モジュールからEQモジュールへと流れていきます。PRE DYNを有効にすると、このルーティングは逆になり、EQモジュール前になりダイナミクス・モジュールへと信号が流れます。ボタンの下にある赤いLEDが点灯しているときはプリーダイナミクスはオンになっています。

グローバル



I/O メーター

垂直LEDスタイルのメーターは、プラグインの入出力レベルを視覚的に表します。(メーターに調節機能はありません。左側のメーターは入力を示し、右側のメーターは出力を示します。)

注: 各々のメーターは左右のチャンネルではなく、その合計を表します。(ステレオ・メーターではありません)



Input

インプットはプラグインへ入力されるシグナル・レベルをコントロールします。デフォルト値は0dBです。調整可能な範囲は±20dBです。より大きな入力を設定するとスレッシュホールドとレシオ・パラメーターの値に応じてより多くのコンプレッションを得るかもしれません。

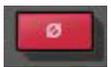
Tips: センターにゲイン・ツマミを戻すには「0」をクリックしてください。



アウトプット

アウトプット・コントロールはプラグインから出力されるシグナル・レベルをコントロールします。デフォルト値は0dBです。調整可能な範囲は±20dBです。

Tips: センターにゲイン・ツマミを戻すには「0」をクリックしてください。



フェイズ(Ø)

フェイズ(Ø)・ボタンは信号の極性(位相)を180° 逆(逆相)にします。ボタンが押されている状況では信号は逆さです。正磁極(正相)にするにはボタンをオフの状態にしてください。



パワー

パワー・ボタンはプラグインが動作中かどうかを決定し、表します。プロセッサーを無効にするにはパワー・ボタンをクリックしてください。パワーはエフェクトによって処理された音と、元の音を比較する場合に役立ちます。

※UAD、UAD-1、UAD-2とUAD 4Kはユニバーサル・オーディオ社の登録商標です。他のすべての名前はソリッド・ステート・ロジックの商標です。そしてそれはUniversal Audioと関連しない、または提携していません。

他のメーカーのこれらの商標はUAD 4Kのサウンドの研究開発を行うために回路やサウンドの特定のために使用されました。サードパーティの商標は情報の目的のみであってUniversal Audioのスポンサーシップやエンドースを意味するものではありません。